

北海道旭川農業高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和6年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	アグリマイスター顕彰制度を推進します。 (1) 各種資格取得に向けて指導体制を強化します。 (2) 学校全体での農業クラブ活動の充実を図ります。	農業クラブを核とした活動を進めた結果、アグリマイスターラッパに該当する生徒をはじめ合計39名の生徒が応募、全教職員で指導を実施を継続できた。	農業技術検定2級に対する指導を強化する。大会出場者に対する指導を強化する。	5
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	ASIAGAP認証継続に向けて学校農場の生産体制を見直します。	生徒が主体となり今年度も野菜部門でASIA-GAP認証を継続した。	学校全体としての条件整備を引き続き行う。	4
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	農業人材育成地域連携協議会を通じ地域連携機関と協力し、農業担い手・農業理解者の育成を推進します。	コロナ禍前並に外部と連携した視察・講演会を実施することができた。	引き続き効果ある事業の計画を協議会として検討していく。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	日頃の学習を活かし、地域課題を取り入れたプロジェクト活動の更なる高度化を推進します。	各種連携機関との協働活動、地域活性化に向けた取組を実施した。	活動の検証をしっかりと行い、次年度へ向けた課題を整理する。	5
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1) 土作りや減農薬栽培を実施し土壌環境保全に取り組みます。 (2) 自然環境保全活動に参加し意識向上を図ります。	(1) もみがら堆肥化を学科を越えて取り組むなど環境保全に取り組めた。 (2) ESD活動へ積極的に参加した。	GAP認証継続に向けて更に環境保全に努める。 今後も継続的に実施する。	5
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1) 旭川農業高校実習生産物や地域生産物を活用した商品開発を地域企業と連携して行います。 (2) 林産物の有効活用法の研究を推進します。	(1) 多くの企業と連携した商品が開発・販売された。 (2) 間伐材などの有効活用を目指した探究活動を行った。	一過性のものとならないよう改良しより良い商品開発を目指す。 関係機関との連携を深化し探究活動を深めていく。	5
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	スマート農業への取り組み及びICTを用いた学習を導入し、各学科の特色を活かした地域交流の充実・発展を図る。また学校施設を積極的に開放し、教育活動の場として提供する。	ICTの特性を活用した農業教育を行ったほか、本校に地域の小学生や幼稚園児を招いての交流学習や開放講座を実施した。	Society5.0に対応した教育ができるように各学科・部門で検証していく。	4
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1) 常に安全教育の徹底・危機管理意識向上を図ります。 (2) 生徒・教職員が日頃より防災意識を高く持ち、防災訓練内容の充実を図ります。 (3) 新型コロナウイルスに対応した実習授業を展開します。	(1) 常に安全意識を持った上で農場運営を行った。 (2) 各機関と連携し防災訓練を複数回取り組んだ。 (3) 継続して安全安心な実習環境を提供することができた。	GAP教育と連動させて危険箇所の排除と教員・生徒の安全意識向上を更に図る。	4